

「原爆体験者等健康意識調査報告書」等に関する検討会

報告書 概要 (案)

1 経緯と目的

広島に投下された原子爆弾(原爆)に伴う「黒い雨」について、広島市を中心とする被爆地域周辺の住民を対象として実施された実態調査等の報告を踏まえ、平成22年7月に広島県、広島市と周辺自治体から国に対して「被爆地域拡大」の要望が提出された。

被爆地域の指定に当たっては、科学的・合理的な根拠が必要であることから、要望を受けた地域における広島原爆による健康影響について、科学的に検証するために本検討会が厚生労働省健康局長の下に設置された。

本報告書は〇回の検討会と5回のワーキンググループでの検討とその結果をまとめたものである。

2 要望地域における広島原爆放射線による健康影響及び広島市から提出された「原爆体験者等健康意識調査報告書」の検討

(1) 要望地域における広島原爆由来の残留放射線等の程度

現時点で、今回、広島市等が要望する地域において、広島原爆由来の放射性降下物が存在したとする明確な痕跡は見いだせず、従って、この放射性降下物による外部及び内部被曝についても明確な根拠が存在しないと考えられる。なお、当該地域においては、原爆からの直接の放射線及び誘導放射線は実質上、ゼロと見なしうる。従って、これらの地域において、内部被曝を含め広島原爆由来の放射線により健康影響が生じたとする考え方は明確ではない。

(2) 黒い雨を体験したと回答した人々の健康状態

被爆者健康手帳や健康診断受診者証を所持しておらず、黒い雨の体験があると回答した人々(黒い雨体験群)は、黒い雨の体験がないと回答した人々(黒い雨非体験群)に比して精神的健康の指標が悪い傾向がみられた。

また、黒い雨の体験率により高体験(体験率50%以上)地域と低体験(体験率50%未満)地域を区分して比較した場合、精神的健康状態指標のうちK6のみが高体験地域で精神的健康状態が悪いことを示した。これは、単に黒い雨体験を報告した者の多い地域を高体験地域に選んだことから、黒い雨を体験したと回答した者が高体験地域に多く含まれる影響を完全には排除できておらず、解釈には注意が必要と考えられた。なお、その原因は、放射線への不安や心配によると説明することができる。

但し、今回の要望地域で原爆を体験した者が、これ以外の地域で体験した人々と比べて精

神的健康状態が悪いという明確な結果は得られなかった。

また、身体的な疾患への放射線の影響については、調査設計上評価が困難であり、これまでの科学的知見に加え、要望地域における広島原爆由来の残留放射線等については(1)の状況であり、今回の調査において放射線が中枢神経系に影響して、精神的な影響がでたとは考えがたいと判断した。

(3) 「黒い雨」の地理分布

推定された降雨域および黒い雨体験の回答の確からしさの検証を行ったが、同じ地域において黒い雨の体験率が50%を超える地域は未指定地域においては一部に限られること、特に爆心地から20キロ以遠においてデータが少ないこと、60年以上前の記憶によっており、正確性を十分明らかにできなかったことから、今回の調査から黒い雨の降雨域を決定することは困難であると判断した。

3 結論

現時点で、要望地域において原爆放射線による健康影響があったとする根拠は見いだせない。身体的健康影響について科学的に判断することは調査設計上困難である。黒い雨を体験したと自己申告した者について、精神的な健康状態の悪化が認められ、放射線への不安や心配で説明されると考えられた。また、広島原爆投下後の降雨に関連する情報(宇田技師らの報告や放射線影響研究所が発表した「原爆直後の「雨」情報」等)を合わせて検討をおこなったものの、今回の調査から黒い雨降雨域を確定できず、調査結果は要望地域における放射性降下物を確認できる合理的根拠とはならない。

4 付記

黒い雨体験群の神的健康状態が黒い雨非体験群に比して悪い傾向がみられ、放射線に対する不安に起因すると推定されることから、黒い雨を体験したと訴える方々に対し、不安軽減のための相談などの取り組みが有用である可能性がある。また、今回の大規模な調査を含む過去の検討により、数度にわたり、原爆由来の放射性降下物やその健康影響について検証してきたところであるが、明かな影響は確認されていないところであり、更なる調査を行うことの意義は低いと考えられる。

ⁱ K6(Kessle's Psychological Distress Scale)

うつ病性障害および不安障害をスクリーニングするための尺度として Kessler らにより提案された6項目からなる自記式質問票。